

愛知池（愛知用水・東郷調整池）

— 愛知県東郷町，日進市，みよし市 —

(独)水資源機構 宮下 武士

1. はじめに

「愛知用水」は中部圏だけでなく全国でも知名度の高い用水の一つであると自負しているが，農業農村工学分野の方々以外の知名度はどうだろう。愛知県内では水資源機構の名前は知らずとも「愛知用水」といえば老若男女ともよく知られていると思っていたが，先日，県内では有名な集客施設である「JA あぐりタウンげんきの郷」のイベントで来場者にアンケートを行った際，さすがに「愛知用水」の名前を聞いたことがないという方はいなかったが，役割は知らないという方が約3割にのぼった。通水開始から今年で63年目を迎え，地域には当たり前の存在となっているともいえるが，その果たしている役割が知られなくなっていることは少々寂しい。広報の強化は必要だが，愛知用水の各施設が地域の方々に日ごろから親しまれることを通して，その役割への関心を持ってもらいたいと考えている。

「愛知池」(写真-1)はGoogleマップを高縮尺から拡大していくと，ため池の多い愛知県の中でもいち早くW形状の水面が名古屋市の東方に浮き出てくる。岐阜県中濃地域から知多半島まで約112 kmにわたる愛知用水幹線水路のほぼ中間に位置しており，その水利的役割を踏まえて愛知用水の心臓部と呼ばれてきた。平成18年に完了した愛知用水二期事業後は幹線水路

の主要な施設はすべて愛知池に隣接した総合管理所の中央操作室でコントロールできるようになり，心臓部だけでなく頭脳の役割も果たしているところである。

2. 施設の役割

(1) 愛知用水の役割とその変遷 干ばつや飲み水の不足に長年苦しんできた知多地域の人々の熱心な働きかけがきっかけとなり，戦後復興の国家的プロジェクトとして昭和36年に完成した愛知用水事業は，中京圏の飛躍的な発展に多大な貢献を行ってきた。昭和56年からは愛知用水二期事業による水路の複線化や新たな水需要への対応を行い，ライフラインとしての機能と役割が強化された。

その役割は時代とともに変遷し，昭和30年代当初は農業用水の年間通水比率が約7割を占めていたが，名古屋市臨海部の工業用水需要の増加や名古屋市近郊部の都市化による水道需要の増加により，現在では年間通水量のほぼ半分，52%を工業用水が占め，次いで水道27%，農業21%となっている(図-1)。

農業面では安定した用水供給によって多様で付加価値の高い農産物の生産へのシフトが進み，野菜・果実・花き栽培への用水供給比率が約7割まで増加している。他方，工業用水の需要先は製鉄，化学，製紙，食品，製造，エネルギー関連と多種多様に増加しており，特に日本製鉄名古屋製鉄所や愛知製鋼等の製鉄業への用水供給は，中京圏のものづくりを支える重要な役割を担っている。

(2) 愛知池の役割 愛知用水の路線選定では，岐阜県兼山地点の取水口から知多半島先端まで，極力自



写真-1 愛知池（東郷調整池）

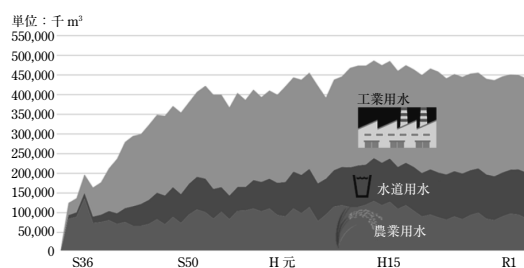


図-1 愛知用水の用途別年間使用水量の変遷

然圧による導水とトンネル・サイホンを少なくする工費節約の観点から、台地上をつなぐ路線選定が行われたが、幹線水路のほぼ中央部で約 20 m の落差が生じた。この落差を利用して愛知池が作られている。中間地点に位置していることもあり、その役割として①木曽川の洪水時の余剰水の貯留、②分水地点への送水到達時間の短縮、③需要変動に伴う送水量調整という機能を有しており、用水を血流に例えるとその供給量のコントロールという点でまさに心臓の役割を果たしている。

さらに、愛知用水二期事業によって平成 17 年から④池の落差を利用した小水力発電を行っており、再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）による売電単価の上昇により、近年は年間約 700 万 kWh、1 億円強の売電収入を得ている。

3. 地域に親しまれる愛知池

(1) 湖面利用 愛知池の建設当時より愛知県漕艇協会（現：愛知県ボート協会）から陳情を受け、昭和 39 年より公式大会に限って湖面の競技会場としての使用が行われてきた。昭和 56 年には東アジアレガッタ名古屋大会が開催され、愛知池コースは全国の漕艇界に広く知られることとなった。平成 6 年に愛知県で開催されたわかしゃち国体でもボート競技会場として使われることとなったが、全国的に少雨となった平成 6 年渇水と重なり、池の貯水位が夏季に大きく低下した結果、ボート競技のみ開催が約 2 カ月延期され、10 月下旬に開催されたエピソードもある。

現在、名鉄豊田線米野木駅から徒歩 5 分、東名三好 IC から車で 10 分のアクセスの良さから毎年 4 月の中日本レガッタをはじめとして、県下の主要大会はほぼ愛知池で行われており、全国から訪れた選手たちからも漕ぎやすいコースとの評価を得ているとのことである。コースは常設でトヨタ紡織、デンソー、愛知東郷ボートクラブ、東郷高校がホームグラウンドとして利用しており、近年はアスリート向けの大会だけでなく、東郷町民レガッタや各企業の社内レガッタも盛んに開催されるなど、スポーツ振興や地域住民の交流機会創出に大いに貢献している（写真-2）。

(2) 周回道路利用 愛知池はその管理の必要性から、1 周 7.4 km の管理用周回道路を有している。米野木駅周辺開発など池周辺の都市化の進展から、周回道路を散策路として利用したいとの地域住民の要望の高まりを受け、平成 10 年代後半から周回道路の全面一般開放を行っている。現在では、散策、ジョギング・ランニング、自転車等で多くの住民が周回道路を利用しており、土日・休日になれば地域外からも多くの



写真-2 愛知池でのレガッタ競技

方々が訪れ、マラソンや駅伝大会が年間 4 回行われるなど、愛知郡の観光名所の一つとなっている。

(3) 愛知池友の会 かねてより地域住民の方々から水資源機構へ、池周辺の水辺環境である雑木林や遊休草地に対し市民参加による保全整備の協力の申入れが行われていたが、環境と市民参加をテーマとして平成 17 年に開催された愛知万博を背景に、同年 8 月に「NPO 法人愛知池友の会」が発足した。同会では、植樹活動や桜並木の手入れ、さらにはあじさい園の植栽、ごみ拾いウォーク等を通じて、愛知池周辺の水辺環境の保全と地域住民の環境意識向上を目指した活動を行っている。

近年では渡り蝶^{ちょう}であるアサギマダラの保全活動に取り組んでおり、愛知池北西部に愛知池バタフライガーデンを開設し、毎年秋に蝶の観察会を行っている（写真-3）。



写真-3 蝶の観察会

参考文献

- 1) 愛知県漕艇協会還暦記念誌編集委員会：漕道六十年—愛知県漕艇協会還暦記念誌一、愛知県漕艇協会、pp.25～26、47～48（1995）
- 2) 愛知池友の会：愛知池友の会、「愛知池友の会」の設立趣旨とその経緯、<https://tomonokai.aikotoba.jp/menu3.htm>（参照 2024 年 2 月 26 日）